

【 設問アプローチ 】

[22 - B]

- 問1 : ① [設問チェック] 傍線部の、本文中における〈 意味内容 〉を答える問題であることを把握する。
- [アプローチ] 本文読解中に、文脈から傍線部の意味内容を読み取り、〈 根拠 〉となる内容にチェックを入れておく。
- その上で、本文を一通り読み終えた後で、本文中のチェックと選択肢文の内容とを照らし合わせる。
- この際、自分が持っている〈 語句の知識 〉も活用しながら語句の文脈での使われ方を判断し、選択肢を吟味する。
- ② [本文読解 - a] 本文の文脈からは、傍線部の意味内容を推測する〈 根拠 〉が見受けられない。そこで、傍線部の語句の、本来の意味内容から考える。
- 〈 語句の知識 〉から、「うつろな」は「空虚でからっぽな様子」を意味すると考えられる。この語句が、本文中の場面では駅員の声の〈 描写 〉として用いられているので、ここから声の「覇気のない様子」や「生氣のない様子」を表すニュアンスとして用いられていることが考えられる。
- ③ [本文読解 - b] 傍線部の語句の使われ方は、傍線部直前の75行目 ～ 77行目の内容を踏まえて考えることができる。
- 〈 語句の知識 〉から、「いやも応もない」は「選択肢のない」という意味だと考えられる。その上で、本文でのこの語句の使われ方と〈 語句の知識 〉とを照らし合わせて語句の意味内容を考える。
- ④ [本文読解 - c] 文中で用いられている構文を踏まえて、傍線部の語句の意味内容を推測することができる。
- 傍線部前後の文脈を確認すると、傍線部からその直後にかけて「温和な彼には似もつかね 猛々しさ」とある。ここから、「温和な」は「猛々しさ」と対比的な意味を持つ語句であることが推測される。
- 〈 語句の知識 〉から、「温和な」は「気温や性格が穏やかなこと」を意味すると考えられる。その上で、本文でのこの語句の使われ方と〈 語句の知識 〉とを照らし合わせて語句の意味内容を考える。
- ⑤ [設問読解] ②・③・④でそれぞれ確認した傍線部の〈 内容説明 〉を設問の〈 根拠 〉として、本文の内容を適切に説明している選択肢を、解答として選ぶ。

- 問2 : ① [設問チェック] 傍線部について、〈 内容説明 〉が求められていることを把握する。
- また、傍線部の内容を明らかにするためのポイントを確認しておく。

・「失った平面」と「別な蔽い」とは、それぞれ何を意味しているのか。

② [本文読解] 傍線部の前後から、場面の状況を読み取る。

まず8行目に「窓はことごとく閉まっている」とあり、その後11行目に健が「鎧扉に両手をかけた」とある。そして、その内容に続いて傍線部を含む一文がある。

傍線部の直前には、「-、車台の底に押しこまれた横棧の板は、」とあり、この部分が傍線部の主語であることが見て取れる。

傍線部の直前の内容から、傍線部中の「失った平面」とは「鎧扉」のことであると読み取れる。また、「別な蔽い」は、傍線部直後の内容から「車内の温気で曇った窓」を表しており、文脈からこの窓が「磨りガラス」であることも読み取れる。

以上のことから、傍線部前後の内容と傍線部の内容を踏まえて傍線部の状況を整理すると、「健が、車窓の鎧扉に手をかけその扉を開けたことで、車内の温気で曇った横棧の窓ガラスが、鎧扉のあった場所に代わって現れた」という内容が読み取れる。

③ [設問読解] ②で確認した傍線部の〈 内容説明 〉を踏まえて、本文の内容を適切に説明した選択肢を解答として選ぶ。

問3 : ① [設問チェック] 傍線部に関して、「健の様子」が問われていることを把握する。

傍線部中には、「そうであり、そうでもなかった」というように2つの指示語があるので、その指示内容から傍線部の〈 内容説明 〉を明らかにする。

② [本文読解 I] 傍線部中の2つの指示語の、指示内容について確認していく。

傍線部直前の一文に「健はそれに見入っていたのか」とあるが、傍線部中の2つの指示語はいずれもこの一文の内容を指している。そのため、今度はこの一文の指示語「それ」の指示内容を確認する。

健が何に見入っていたのかについては、文脈から読み取ることができる。

13行目以降の部分で、健は車窓から外の風景を眺めている。14行目には、「外界が薔薇いろに染まった」との記述があり、19行目からは『「うわっ」健は喚きたかった』とあるように、この風景に対して健が感じ入っている〈 描写 〉がある。

さらに、続く21行目には「薔薇は失せた」との記述があり、25行目には「いまは明るい窓が左右に並んでいる」とある。

③ [本文読解 II] ②で確認した傍線部までの内容を踏まえて、傍線部以降にある傍線部の〈 内容説明 〉を確認する。28行目～29行目に「- 健はまだ魅せられていた。」との記述があり、31行目～33行目には「- ただそこに在るというだけの雑多な画面になってしまう」とある。

④ [設問読解] ②と③で確認した傍線部の〈 内容説明 〉から、傍線部「そうであり、そうでもなかった」の意味内容を考察する。それによって、「健が実際に見ているのは明るい窓の外の景色だが、その心の中では、先ほど見た薔薇いろの風景を思い浮かべていた」という内容が読み取れる。

以上を踏まえて、本文の内容を適切に説明した選択肢を吟味する。

問4 : ① [設問チェック] 傍線部について、〈 理由 〉が問われていることを把握する。
また、傍線部中に指示語「この」があるので、その指示内容を本文中から明らかにする。

② [本文読解] まず、傍線部中の指示語「この言葉」は、直前の「元始に - 」を指していることを把握する。その上で、傍線部中にある「この言葉が意識にわきでた」ことで、どうなったのかについては、傍線部までにその記述はないので、傍線部の〈 内容説明 〉は傍線部以降の部分にあることを〈 予測 〉する。

傍線部以降の内容を確認すると、55行目に「しかし」という逆接の接続語があるので、その後の内容に注目する。すると、56行目～59行目に「それなのに - 蘇った」との内容があり、この部分が傍線部の〈 理由 〉を説明する内容であることが読み取れる。

③ [設問読解] 傍線部までの物語の展開と、②で確認した設問の〈 根拠 〉を踏まえて、本文の内容を適切に説明した選択肢を解答として選ぶ。

問5 : ① [設問チェック] 傍線部に関して、〈 理由 〉が求められていることを把握する。
また、傍線部中に「怖れていなかった」という〈 心情 〉があるので、その〈 内容説明 〉を本文から明らかにする。

② [本文読解] 傍線部④の内容を理解するためには、まず健がこの場面においてどのような状況に置かれていたのかを把握する必要がある。

リード文には、留学を決意した健が留学の許可と金銭の援助を実家の兄に求めるために、故郷へと向かっているとある。そして本文の内容から、本文で描かれている場面が故郷へ向かう道中の汽車の中であることが分かる。

その上で、傍線部の内容を理解するためには、「健が何を怖れていたのか」という〈 心情 〉と「なぜもう怖れなくなったのか」という〈 理由 〉を把握することが必要になる。

傍線部⑤に関する直接的な〈 内容説明 〉は、63行目以降傍線部⑤までの範囲にある。この範囲の内容から、「健が何を怖れていたのか」を読み取ると、それは「画家になるための新しい生活に対して」と見ることができる。

それでは「なぜもう怖れなくなったのか」についてだが、これについては66行目から67行目にかけて「ブラッシュ - できるはずだ」との記述がある。その内容を踏まえて、81行目～86行目の内容を確認すると、「疑いなく - そっくり捉えて見せる」や「二十二の健の夢の果てしない拮据りは、 - 猛々しさにまで変質させていた」との記述がある。

77行目～80行目には、「死物狂いの覚悟」などのフレーズがあり、これについて79行目には「やるとも。」という健の〈 心情 〉が述べられている。

以上を踏まえて、傍線部の意味内容を考察すると、「健は画家になるためのアメリカでの生活に不安を覚えていたが、車窓から見たような一瞬の美しさを描きたいという目標によ

って、その不安がなくなった」ということが考えられる。

- ③ 〔設問読解〕②で確認した内容を踏まえて、本文の内容を適切に説明している選択肢を解答として選ぶ。

問6 : ① 〔設問チェック〕「本文の内容」や「表現の特徴」について答える問題であることから、特定の部分ではなく、本文全体から〈根拠〉を求める意識が必要になる。

→ 〔アプローチ〕本文全体から〈根拠〉を求める設問では、先に選択肢文の内容に目を通し、ポイントとなる内容にチェックを入れておく。

- ② 〔本文読解〕本文を読解する際に、内容の要点や文構造・物語の展開をチェックしておき、本文の内容を通して把握しておく。

- ③ 〔設問読解〕①でチェックした選択肢文の要点と、②でチェックした本文の要点とを照らし合わせて、適切な選択肢文を吟味する。

この際、単に文章の内容の正誤を確かめるだけではなく、文章の流れを正しく汲んだ内容説明になっているかも確認する。